

1. 評価報告概要表

作成日平成20年5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400284
法人名	有限会社 希望
事業所名	グループホーム 希望
所在地	甘楽郡甘楽町白倉831-58 (電話) 0274-74-7765

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年4月30日

【情報提供票より】(20年 4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建て	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000~48,000 円	その他の経費(月額)	350円/日	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 89 歳	最低	85 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	庭谷クリニック、小幡医院、公立富岡総合病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を農地に囲まれた高台の静かな甘楽町の住宅地にある。代表者は、職員の資質向上に熱意を持ち、研修計画を作成し計画的に職員を育成している。入居者に対するサービス計画を立てるのが職員の資質向上に役立つことから、入居者毎に担当職員制をとり、その担当職員が「援助計画」を立て、介護支援専門員は「援助計画」に基づき意見交換を交え介護計画を作成している。また、グループ内での管理者会議やホーム長会議を定期的に行い、介護の在り方等について検討し、法人内の均質なサービスの提供と質の向上に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「希望便り」に掲載したり、今後は運営推進会議等で地域の人達に、理念の啓発・広報をしていく。「刃物の保管を、入居者の手の届かない棚に保管替える。」「外部苦情受付機関を、重要事項説明書により入居時に家族や本人に説明している。」等具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、代表者等特定の職員が作成し他の職員には伝えられていない。今後は、評価の意義を全職員に伝え、評価を活かした改善に取り組まれるよう期待する。今回の自己評価に基づき、一人夜勤を夜勤と準夜勤の体制に改める取り組みをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>過去1年間の間、運営推進会議を開催していないので、今後は定期的に行い、取り組み状況等を報告し、出された意見を基にサービスの質の向上に活かされるよう期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居の際「苦情・ご要望・ご意見書」を家族に渡し、記名は自由で、苦情や意見等を記載しポストに入れるよう説明し、意見は「要望・意見書」に記録し対応している。「行事計画がわかれば、参加したい」という意見により、電話で通知していたが、今後は「希望便り」に翌月の行事予定を掲載する等、意見を反映した取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、職員は道路清掃活動に参加している。また、小学校の運動会に招待され入居者と子供達が一緒に玉入れを楽しんだり、保育園児のお遊戯、中学生の吹奏楽部の演奏、体験学習の受入れをしている。地域の人とは、散歩で挨拶を交わし、野菜や椿・木蓮の苗木を頂いたりしている。また、入居者とカラオケやおしゃべりを楽しみにホームへ来てくれる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念をスタッフ会議で見直し、「認知症であっても、その人らしく、ありのままに、ゆったりと」に「地域で普通の生活を」も理念も盛り込んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念について説明している。スタッフ会議では、残存機能を活かしたその人らしい生活の継続について、夜間の排泄誘導、リハビリパンツの使用等理念に沿った支援の方法を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、職員は道路清掃活動に参加している。また、小学校の運動会に招待され入居者と子供達と一緒に玉入れを楽しんだり、保育園児のお遊戯、中学生の吹奏楽部の演奏、体験学習の受入れをしている。地域の人は、散歩で挨拶を交わし、野菜や椿・木蓮の苗木を頂いたりしている。また、入居者とカラオケやおしゃべりを楽しみにホームへ来てくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の課題に対して、事業所理念を地域に広報、刃物等の保管、苦情受付外部機関の入居者への周知等、具体的に改善に取り組んでいる。自己評価は、管理者が素案を作り、代表者と介護支援専門員が確認し作成しているが、職員には伝えていない。自己評価に伴う改善点としては、「一人夜勤を、夜勤と準夜勤の体制に改める」取り組みをしている。	○	自己評価の意義を全職員に伝え、職員で自己評価に取り組み、実践がなされているかを具体的に確認し、改善に向けた具体的な課題を見出すことを期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年度は、1回も開催していない。今後は定期的開催し、事業状況等を報告し、運営状況等について意見を聞き、地域の中で・地域の人々と共に生活する事業所運営をしていきたいと考えている。5月に開催予定である。	○	運営推進会議を定期的開催し、取り組み状況等を報告し、出された意見をサービスの質の向上に活かされるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者には、毎月発行している「希望便り」を持参し、事業状況等を報告している。担当者からは制度改正等についての情報を聞いたり、運営推進会議の開催について指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や毎月発行している「希望便り」で、日常生活や行事開催状況等を報告している。また、体調不良等特別な事柄は、電話で報告している。金銭管理は、「立替金」処理し、レシートを添え毎月精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際「苦情・ご要望・ご意見書」を家族に渡し、記名は自由で、苦情や意見等を記載しポストに入れるよう説明し、意見は「要望・意見書」に記録し対応している。「行事計画がわかれば、参加したい」という意見により、電話で通知していたが、今後は「希望便り」に翌月の行事予定を掲載する等、意見を反映した取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との関係を1日でも早く築くため、新規採用職員にはベテラン職員を配置し、マンツーマンで早番・遅番・夜勤・準夜勤を各2回体験させている。職員の異動については、グループ内での職員相互交流研修や行事を合同で開催し、職員も入居者もお互いが顔見知りとなってから行うこととしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の研修やマンパワーセンター主催の年間研修計画が通知されたので、事業所の研修計画を作成し受講する予定である。グループ内では月1回管理者会議や3ヶ月に1回ホーム長会議を開催し、介護の在り方等について検討し、法人内の均質なサービス提供と質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会南部ブロック情報交換会や担当者会議、職員相互派遣研修に参加し、制度改正等についての情報交換や職員の資質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、事業所の見学・体験利用や宿泊をしていただいている。また、利用申込者の家庭を訪問し、本人の生活歴や身体状況、希望等を聞き、事業所の概況等を説明し安心して利用出来るよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人のできることを見極めて、調理の仕込みや配膳・下膳をしていただいたり、利用者には農家の人が多いので野菜の栽培管理や収穫を家族も交えて職員と共に行っている。また、昔のことわざを教えてもらったり、戦時中の話を繰り返し聞くなど、共に支え合う関係作りに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族との会話の中で、食事の好みや日中の過ごし方の希望を聞き、対応している。また、日々の生活を観察して、起床・排泄等の生活リズムを記録し、介護支援に役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者に対するサービス計画を立てるのが職員の資質向上に役立つことから入居者一人毎に担当職員制を取り、その担当職員が「援助計画」を立て、介護支援専門員は「援助計画」に基づき意見交換を交えて介護計画を作成している。介護計画を家族に説明し、意見に基づく修正を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメント表を3か月毎に見直し、アセスメント表に変化があった時はサービス計画の変更を行い、家族に説明している。定期的見直し以外には行っていない。	○	必要に応じ現状に即した介護計画の見直しを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通常の受診は職員が送迎し対応しているが、家族にも状況の説明が必要である受診の際は、家族と一緒に医師の話を聞けるよう対応している。また、近くの理美容院への送迎は職員が送迎している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を受診している。家族の了解を得られた入居者は、ホームの協力医院を受診している。協力医院の月2回の往診、歯科も含め複数の医療機関と関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「認知症の重度化等の場合の指針及び同意書」に基づき、家族の同意を頂き、認知症の重度化による心身状態の悪化に対してはできるだけホームが対応するものとしている。看取りについては、本人や家族の意向、主治医の判断、施設・職員体制・他の入居者の状況等を総合的に考慮し、適切に対応するものとしているが、職員には説明していない。	○	重度化や終末期に向けた方針について、職員との共有化を図るよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう、排泄の誘導や言葉かけ等について入職時に指導している。また、県が主催する新入職員研修を受講している。外部への書類の持ち出しを禁止し、書類は鍵の掛かるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞きながら、急がず、ゆっくり、一人ひとり余裕を持った日常生活が送れるよう支援している。また、沢山の本を持ち込み読書を楽しんでいる入居者や、短歌を投稿し入選した入居者等思い思いに過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者から3食毎のカロリー量が記載された1週間分の献立表が届き、食材は毎日配達され、職員が調理している。時には入居者の希望により献立にないカレー等を調理することがある。仕込み・配膳・下膳、テーブル拭き等を入居者と職員が一緒に行い、時には外食やホームの庭で「昼食パーティー」を開き、食事と一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回の入浴としているが、2つある浴室のどちらかは入浴できる準備がされており、毎日入浴している入居者もいる。入りたくない入居者には、無理をせず翌日入るよう誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園や草花の栽培管理を行う園芸係、調理や食器洗い係、洗濯物たたみ係などの役割があり、また、食事の時「いただきます」と号令をかける等できる範囲で活躍できる場をつくりあげている。また、毎朝の体操や切り絵の創作活動、ドライブや買い物等入居者の希望を取り入れ、充実した生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おめかしをして散歩やドライブに出かけたり、お菓子などの買い物や外食をしたり、ひなたぼっこを兼ねた庭での昼食会等機会を捉え外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近所の人々が訪問し易いために、開設当初から鍵をかけていないので職員は鍵をかけないのが当たり前と認識している。帰宅願望の入居者には、日常の支援の中で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルがあり、緊急連絡網とともに電話の脇に貼られている。避難場所は指定され、避難器具が整備されている。自主避難訓練を年2回実施しているが、消防署の指導や地域の人への協力依頼はしてない。	○	避難訓練に際しては消防署の指導を受け、災害時に地域の人々の協力が得られるよう働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は、状態チェック介護記録表に3食ごとの主食・副食の摂取割合を記入している。むくみのある人や便秘気味の人は、医師の指示に基づき、必要量の水分摂取を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には季節の花が活けられ、職員と入居者の合作による鯉のぼりが飾られる等季節感が感じられるよう工夫されている。居間にはカラオケセットもあり、時には野菜を持ってきた人が入居者と共に歌を楽しむこともある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や観葉植物が置かれたり、また本が沢山持ち込まれたり、家族の写真や孫の書き初めが飾られたり、横綱の写真や相撲の番付表が貼られるなど、各居室ともその人らしく居心地良く過ごせるよう配慮されている。		